



写真-31：伊那市長谷東風巻谷

剪定・袋詰め作業。ヒメバラモミの葉は棘で痛いので、革手袋をすると作業し易い。剪定した穂木は、その日のうちに宅配便で（社）林木育種協会十王事務所に送り、冷蔵保存した（写真提供：明石浩司氏）



写真-32：北杜市白州町大平（山梨県有林）

整枝した穂木は、採穂個体ごとにビニール袋に入れ、必ず番号を書き、他の個体と混ざらないようにする

Ⅳ 北海道江別市の当協会苗畑における接ぎ木作業等



写真-33：ヒメバラモミの接ぎ木用台木（ドイツトウヒ 1回床替4年生）
北海道江別市当協会苗畑（平成18年10月）



写真-34：雪害防止用木造三角支柱
北海道江別市当協会苗畑（平成18年10月）



写真-35：接ぎ木実施に際して、風害防止のため、接ぎ木苗木植栽地の全周囲を合板で覆った（平成19年4月7日）



写真-36：直射日光を避けて適度な温度を保つためと、風を防止するために、天井部分の全面に網を張った（平成19年4月27日～28日）



写真-37：接ぎ木の実施状況（平成19年5月22日～30日）



写真-38：接ぎ木終了後、接ぎ木部分を乾燥等から保護するために、袋を掛ける（平成19年5月30日）



写真-39：接ぎ穂が活着している事を確認して袋を外す（平成19年6月25日～28日）



写真-40：接ぎ木苗木を外気に徐々に馴らすため、周囲に囲った合板を1枚置きに外し（7月11日）、また、接ぎ木した穂に養分及び水分が行き渡るように余分な枝を除く剪定作業を行う（平成19年8月18日～19日）



写真-41：本格的に外気に馴らすために周囲の合板と天井部分の網を外し、風が強いので念のために防風ネットを周囲に張った（8月1日）。また第2回目の剪定を行った（平成19年8月28日～29日）



写真-42：接ぎ木した穂が完全に活着し、勢いよく成長している状況（平成19年8月30日）



写真-43：接ぎ穂が完全に活着しているとは言えないが、枯れてはいないことから、期待を込めて今後観察していく必要（要観察）のある穂の状況（平成19年8月30日）



写真-44：完全に枯れてしまったと思われる接ぎ穂（平成19年8月30日）



写真-45：活着苗木及び要観察苗木に「系統表示テープ」を付けた状況（平成19年9月13日）



写真-46：接ぎ木苗木を冬期間の雪害から守るため、各苗床に木造の三角支柱を設置し、それに合板を打ち付けた状況（平成19年10月29日～30日）



写真-47：前年秋に設置した雪害防止用木造三角支柱
雪解け間近の苗床の状況（平成20年4月2日）



写真-48：木造三角支柱の被覆合板撤収後の状況（平成20年4月16日）



写真-49：細根の発達を促すため、根切りスコップにより根切りを行っている状況（平成20年4月18日）



写真-50：霜害を防止するための寒冷紗の設置状況
（平成20年5月9日）



写真-51：台木がトウヒの芽吹き状況（平成20年5月9日）



写真-52：台木がアカエゾマツの芽吹き状況（平成20年5月9日）



写真-53：台木がトウヒで、初夏を迎えて旺盛な成長を示している穂の状況（平成20年6月24日）



写真-54：台木がアカエゾマツで、初夏を迎えて旺盛な成長を示している状況（平成20年6月24日）



写真-55：穂の本年伸長部分が木質化して来ている状況（平成20年8月19日）



写真-56：台木の枝の剪定作業終了後の苗床の状況（平成20年9月8日）



写真-57：越冬床の早春3月の残雪状況（平成21年3月26日）



写真-58：床替後防霜のための寒冷紗を設置した状況（平成21年5月2日）



写真-59：台木剪定後の苗木及び苗床の状況（平成21年6月25日）



写真-60：枝性を矯正するためにイボ竹を立てて麻紐で固定した状況（平成21年7月17日）



写真-61：将来にわたって厳格な系統管理を行うため系統表示票を取り付けた状況（平成21年9月2日）



写真-62：今年の成長を終え、来年の山出しのための仮植を待っている苗木の状況（平成21年9月18日）



写真-63：用途別に選苗した苗木について、掘り取り選苗を行い、来春発送するための仮植を行った状況（平成21年11月9日）



写真-64：八ヶ岳地域遺伝資源林造成予定地（八ヶ岳西岳国有林1333林班い班：平成21年10月）



写真-65：仮植越冬床の早春4月の残雪の状況



写真-66：仮植床の融雪を促すために越冬用の板を外し、床周辺を除雪した状況